

(別添 4)

## 【竜王町】

### 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

#### 1 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

1 人 1 台端末および高速大容量ネットワークを中心とする ICT 環境を活用することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による、主体的で対話的で深い学びの実現を目指す。

特に、デジタルの優位性を生かすことで、児童生徒が学習の方法やツールなどを自分で選択し、多様な他者と協働しながら、学習者主体の学びを実現する。そして、すべての学習の基盤となる情報活用能力や、自己調整力の育成を目指す。

#### 2 G I G A 第 1 期の総括

当町では、G I G A スクール構想を契機に 1 人 1 台端末および高速大容量の通信ネットワークを整備したほか、授業を担当する教員 1 人 1 台の指導者用端末、各普通教室および各特別教室の大型提示装置、各普通教室の実物投影機を一齐に整備し、令和 3 年度から本格稼働させた。1 人 1 台端末の活用率を高める仕組みとして、クラスメイトとリアルタイムで考えを共有する授業支援ソフトや児童生徒一人ひとりの理解度にあわせて問題を出す A I 型のデジタルドリルなど、多様なデジタルツールを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進してきた。また、G I G A スクール構想当初から、I C T 支援員を配置し、各種授業支援ツールの活用促進を図り、児童生徒のアカウント管理や端末年の次更新、トラブル発生時の応急的な対応等を実施している。さらに、臨時休校等に備えた学びの保障の取組として、授業支援ソフトやウェブ会議システム、デジタルドリルなどを活用したオンライン学習を実施し、現在ではインフルエンザ等による学級閉鎖や出席停止時でも学びを止めないための重要なツールとなっている。

このように 1 人 1 台端末環境下で積み上げてきた実践や仕組みを今後に活かし、さらなる学びの質の向上に繋がられるよう、同環境を引き続き維持し、向上させることに努める。

一方、児童生徒の端末の活用率については、学校間あるいは教員間で差が生じている実情がある。各学校では校内研究会や O J T 研修、学校教育課員による指導助言等を通じて教員の活用力の向上を図っている。授業においては資料等を電子データにしてタブレット端末に一齐に配布、回収したりすることや児童生徒がタブレット端末上で調べたことや考えたこと等をまとめたり友達と情報共有をしたりする指導方法が定着してきた。子どもたちは自分自身で「得意を伸ばす」「苦手を克服する」などの学習計画を立て、定期的に A I ドリルに取り組んでいる。また、紙の計算ドリルを廃止し、A I ドリルを家庭での宿題に組み入れている。

令和 6 年度は各校での I C T の効果的活用の研究が促進されたことにより令和 5 年度までの「できるだけ多く使ってみよう」から「必要かどうかを選択して使ってみよう」と利活用のあり方について量から質への転換を図った授業の研究を進めた。

#### 3 1 人 1 台端末の利活用方策

1 および 2 を踏まえ、次のとおり端末の利活用方策を講じる。

##### (1) 1 人 1 台端末の積極的活用

他市町での I C T 支援に実績のある I C T 支援員を外部委託することにより、校内での支援や研修会、他市町での好事例を共有することで、教員の I C T 活用スキルの向上を図る。

児童生徒が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教員とやりとりする場面」において、1 人 1 台端末を積極的に活用するとともに、端末の持ち帰りによる家庭学習について積極的に推進していく。

## (2) 個別最適・協働的な学びの充実

A I 型ドリル教材を町内各学校に導入している。A I 型ドリル教材は、児童生徒 1 人 1 人の理解度に応じた問題を A I が出題するものであり、個別最適な学びに寄与するものである。

また、中学校ではデジタル採点システムを令和 6 年 4 月から本格導入し、採点の効率化により創出できた時間を、個々に応じたきめ細やかな指導の時間に充足したり、テスト分析機能を有効に活用することで、個々の苦手分野などを的確に把握し、事後指導に活かすなどにより、生徒の個別最適な学びに繋げている。

家庭学習については現在のところ長期休業中に課題に取り組む形態での持ち帰り学習が中心となっている。令和 6 年度から令和 7 年度にかけて家庭学習部会を中心に A I ドリルの活用等も含めて家庭学習での活用を検討している。こう言った先行事例の取組を町内各学校で共有しつつ、I C T 活用の頻度やスキルを高めていく。

「タブレット活用ブック」や「I C T 活用実践事例集 2 0 2 4」などの活用ブックや実践事例集については、町内の学校ネットワーク上にアップしており、いつでも確認したり参考として活用したりできるようにしている。また、実践事例集については 2 0 2 5 年度版も作成予定であり、今後各校で共有する予定である。

## (3) 学びの保障

不登校児童生徒や通級指導教室、適応指導教室に通う児童生徒、特別な支援を要する児童生徒に対しては、「リモート授業への参加」「課題等のオンライン送付」「障害のある児童生徒への支援」等、多様な場面での活用を検討する。